

	発行者	教育出版株式会社	株式会社教育芸術社
	書名	音楽のおくりもの	小学生の音楽
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編修の趣旨と工夫	子ども一人一人が主体的に音楽活動に取り組むために「歌詞にふさわしい美しい写真や子どもたちの主体性を生かす活動につながる紙面構成や教材の工夫」「学びの系統性に配慮し、子どもの学習が深まるコンテンツや活動の工夫」「音楽的な見方・考え方を働かせ、子どもの主体的・協働的な学びを引き出す内容の工夫」を意識して編修されている。	子どもに音楽を通して喜びと楽しさを感じてもらいたいとの願いをもって、「何を学ぶか、何ができるようになるかを明確にする」「系統的な題材構成を主軸として学びをつなげ、積み重ねる」「楽しさを大切にした学びにつながる紙面構成」という考え方で編修されている。
	（ア）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	① 着実にステップアップしていけるような教材の配列がされている。常時活動が全学年に設置されており、より定着できるよう工夫されている。 ② 「まなびナビ」により、見直しをもって考えながら学習できるようになっている。 ③ 音楽を通じて自然を大切に作る気持ちを培ったり、他者を尊重しつながったりすることを意識して、多様な曲種の音楽が扱われている。	① ステップアップしていけるような単元構成や教材の配列がされている。キャラクターの吹き出しによって、学習で学んでいくことを捉えやすくしている。 ② 考える観点が吹き出しで示され、学習の進め方が提示されている。情報量が多い。 ③ 音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にあるさまざまな音や音楽への関心を促す教材や特集が配置されている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	基本方針に関連している。	基本方針に関連している。
	（ウ）内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	① 見開きごとに学習のねらいと学び方を示唆する「まなびナビ」が示されている。題材ごとにも学習の見直しをもって主体的に学んだり、学習を深めたりできるよう配慮されている。また、協同的な学びにつながるような配慮もある。 ② 国語・算数・理科との関連を意識した活動や歌、外国語に親しむ歌など、短時間でできる活動を取り入れている。 ③ 「音楽を表すいろいろな言葉」が教材ごと巻末にまとめられたページがあり、音楽活動を進めていく際の言語活動の充実が図られるようになっている。 ④ 学年に応じて古典作品を掲載し、伝統と文化を尊重する態度を育むよう配慮されている。 ⑤ 音階や和音の響きの違いを体の動きを使って感じ取れるように絵で示されるなど、実感をもって学習が進められるように設定されている。伝統文化でも、実際にまねする体験的な活動を取り入れている。 ⑥ 1年生の導入で、子どもが幼児期に触れた経験があると考えられる教材群を示すとともに、音楽の世界を広げる多様な曲も用意されている。高学年では、中学校で学習する記号等の入った音楽も扱っている。 ⑦ 「まなびリンク」としてデジタルコンテンツを充実させている。奏法や解説資料、動画、音源、ワークシートなどを使って学びを深めることができる。 ⑧ 鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入では、各8ページにわたり、細やかなステップアップで学びが進められるようになっている他、新出音も緩やかに段階を追って扱われ、技能の定着に配慮されている。	① 「考える」「見つける」「歌う・演奏する・つくる」のマークや記述、キャラクターの吹き出し、専門家からのメッセージなどが示され、音楽的な見方・考え方を働かせながら学習が進むようにとの願いが表れている。 ② 3年生以上では、英語の歌を掲載し、外国語に親しむ工夫をしている。 ③ 教材ごとにページ下部に共通事項が示されており、意識して活用できるようになっている。 ④ お囃子や民謡が子どもの発達段階に合わせて教材化されており、郷土の音楽に親しみ、愛着をもてるように工夫されている。 ⑤ ドレミ風船の掲示を使って、指を指しながら歌うことで音の高低を感じ取る工夫がされている。伝統文化でも、実際にまねする体験的な活動を取り入れている。 ⑥ 1年生の導入では、これまでに知っているであろう曲を取り上げたり、音楽に合わせてペアやグループで体を動かしながら歌ったりする活動が取り入れられている。高学年では、中学校で学習する記号等の入った音楽も扱っている。 ⑦ 二次元コードを使って、音源、動画、音づくりや鑑賞に関する資料などを活用することができる。 ⑧ 1年生から4年生まで、リズム、鍵盤ハーモニカ、リコーダーを活用した常時活動を掲載し、アンサンブルの技能に繋げたり、音楽づくりの発想を得るのに生かしたりしている。
（イ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	① 各内容の分量とその配分は適切である。 ② 鍵盤ハーモニカが実物大で示されていて分かりやすい。共通教材の写真や資料が充実している。 ③ 巻末資料が分かりやすい。折り込みを使った写真資料が教材の理解につながっている。また、ユニバーサルデザインを意識し、誰もが見やすい書体や色使いに配慮されている。	① 各内容の分量とその配分は適切である。 ② 鑑賞では、器楽の写真や解説が簡潔で分かりやすい。 ③ 色だけでなく、形で判断できるようにしたり、色が重なる部分の境界線を明確にしたりと様々な色覚特性を持つ子どもへの配慮がなされている。また、フォントも配慮されている。	
（イ） 教科・種目別の観点	①「A表現」と「B鑑賞」の教材は、多様な音楽の中から、児童の発達の段階に応じて適切に選択されているか。	・教材のねらいを生かしつつ、発達段階に応じた教材が歌唱、器楽、鑑賞曲とも豊富に選ばれている。 ・我が国と諸外国の音楽から、様々な時代や曲種のものを選択されている。 ・巻末には、全学年に共通の曲が掲載されており、全校の行事などで演奏することができる。	・教材のねらいを生かしつつ、発達段階に応じた教材が歌唱、器楽、鑑賞曲とも選ばれている。 ・我が国と諸外国の音楽から、様々な時代や曲種のものを選択されている。
	②我が国や郷土の伝統音楽を扱う題材に工夫や配慮がなされているか。	・日本の民謡を扱うページでは、日本中の民謡が紹介されている。 ・共通教材では、我が国の文化や風土を大切にすることに重点を置き、見開きの大きな写真や解説が掲載されている。 ・伝統音楽を扱うページでは、写真を掲載し分かりやすく説明している。 ・箏を扱ったページでは、伝統的な縦書きの楽譜が資料として掲載されている。さらに、「まなびリンク」では、箏を演奏している動画が挙げられている。	・日本の民謡を扱うページでは、日本中の民謡が紹介されている。さらに、二次元コードには、各地の郷土の民謡について解説されている。高学年では、調べ学習を行いながら学習を深めることができるように活動が提示されている。 ・共通教材では、写真やていねいな解説で、日本の文化を意識した構成になっている。 ・箏を扱ったページでは、伝統的な縦書きの楽譜が資料として掲載されている。さらに、二次元コードで音源を聞くことができる。
	③表現（歌唱、器楽、音楽づくり）及び鑑賞、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	・「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」の名称を用いて、教材を関連づけて配列している。 ・全学年の系統性に基づいて組織された題材を軸に、各題材内の教材は教材性を活かして関連・対照・対比されながら設定されており、表現活動と鑑賞活動を効果的に組み合わせることで学習がより深まるよう配慮されている。	・音楽を形づくっている要素を中心に、主に歌唱-器楽-鑑賞、歌唱-鑑賞-音楽づくりの順で関連づけて教材が組まれている。 ・題材のねらいに即した教材の配列になっている。

